いまかね教育かわら版
# こんにちは教育委員会です
ふたたび

No.２３２
令和８（２０２６）年４月２３日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

春です。進級、進学、就職、転勤。新しい出会いの季節ですね。
出張含めて自分の旅行でも、子どもたちの住まいしたところでも色んな人に出会いましたが、ほんとうに日本の人っていい人ばかりで。
自分の住んだ、住んでいる街はもちろん、吉祥寺、三鷹、盛岡、仙台、長崎、松戸みんないい人ばかりで。それに増して今はコンビニに立ち寄っても外国の方がいて、それも皆さんいい感じの人ばかりで。うれしい出会いを実感しているのです。
先日、東京出張の時でした。電車で私の隣に座っていた男の方が降車の際にイヤホンを落として行ってしまいました。声を掛ける間もなくドアが閉まって、気にしながら乗っていたところ、次にそこに座ったお兄さんはイヤホンに気づかず、その上に座っていました。そのお兄さんが降車の時です。制服姿の女子高生が気づき、その方の背中をポンポンと。
「落とされましたよ」「いや、僕のじゃないです」。ああ、都会でもこうやって声がけするんだ。ちゃんと人に関わろうとしてくれるんだ。感心していました。
次にその席に座ろうとした若い女性は、最初にイヤホンを窓際に置こうとしたのですが、思いついたようにゆっくりとつり革のパイプに丁寧に巻いてから座ったのです。私はすごくほっこりした気持ちで電車を降りました。なんか日本っていいなあ。うん、いい。その後の会議はとても穏やかな気持ちで臨めました。

仕事も学業も頑張らなければならない大事なスタートです。そんな場での出会いも、うわべでも人心掌握なんて技術でもなく、ほんとうに「自分は大事にされている」と思ってもらえること。それ以上に人が頑張れることってないんじゃないかな。そう思っています。

## 教育委員リレーエッセイ
## 『　Our Philosophy　』



今金町教育委員　　永井　章



令和８年３月、一番下の子どもが卒業してようやく全員が学生から解放されました。これで、やっと、ようやく一段落できるような感じです。みなさん長い間よくがんばりました。そして、おつかれさまです。
そんな、こんなことを思っているうちに、ふと思い出した「ことば」がありました。「地の塩、世の光」と「何を求める」ということばです。これは子ども達が通っていた高校の校訓です。
何かがグッとくることばだな～と当時から思っていました。どんな意味があるのかと考えたことは何度もありました。しかし、その時々によっていくぶんニュアンスとか思いというか、少しずつ考える意味が変化していることがありました。人それぞれに受け取り方、感じ方は違いますよね。

そして、今金町にもこんなことばがありますよね。
「今金町の子どもたちは今金町民の手で育む」です。これもまたいいことばだな～と思います。この町のあたたかさや人の優しさを感じられることばだと思います。
みなさんはどう思い、どう感じますか？
さて、令和８年度がスタートしてひと月あまりです。みなさんも何か素敵なことばを見つけて、健康で元気に毎日を楽しんでお過ごしいただければ幸いと思います。

